

鳥取県農業信用基金協会

1 鳥取県の概要

鳥取県は、中国地方の日本海側に位置し、東部の海岸線は世界ジオパークにも認定された海食崖や鳥取砂丘が続き、中部には日本遺産第一号の国宝投入堂とラドン泉の三朝温泉があり、西部には冬季の厳しさは日本アルプスに匹敵するといわれる中国地方最高峰の大山など貴重な景観や文化に囲まれています。

人口が55万人と日本一少ない県ですが、「スタ

バ」騒動からはじまり、カニシーズンの「蟹取県」、鬼太郎・コナンなどの「まんが王国」、最近では県内どこからでも天の川が見えることから「星取県」に改名し、新ブランド米として星空舞をデビューさせるなど小さな県ならではの魅力を精力的に発信しています。

2 鳥取県の農業

砂丘地を活かしたらっきょう、ながいも、白ねぎの生産、名峰大山の裾野に広がる黒ボク畑ではスイカ、ブロッコリー、芝など地域の特性を活かした特色ある品目の生産を行っており、「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」の実現に向けて県全体で取り組んでいます。

また、独自品種・系統の育成にも力を入れており、高糖度な早生赤梨の「新甘泉」、大玉の早生甘柿の「輝太郎」、より甘みとコクのあるながいもの「ねばりっこ」、産肉能力が高い和牛の「白鵬85の3」など数多くのオリジナルブランド

があります。

そんな中、近年、鳥取和牛は全国の畜産農家から最も注目される和牛の一つとなっています。

「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」（平成29年開催）において、県代表牛「白鵬85の3」



が「花の7区」で初めて肉質日本一に輝きました。人口も牛の数もともに日本の0.5%程しかない小さな県が、全国の和牛業界を賑わせ、令和2年、県和子牛市場の年間平均価格が唯一80万円台で日本一となりました。

その他、収穫量全国1位なのがらっきょうです。「鳥取砂丘らっきょう」とよばれ、真夏の炎天下、



ひとつひとつ手作業で植え付ける大変な作業が生産を支えています。「らっきょう」といえば、カ



新甘泉 (しんかんせん)



輝太郎 (きたろう)



ねばりっこ



白鵬 (はくほう) 85の3

レーライス。「カレールウ」の消費量が最も多いのも鳥取県。らっきょうの生産が盛んな地域だからこそカレー好きな県民性が育ったのかもしれない。

また、全国有数の芝の生産地でもあり、作付面

積や出荷量は全国2位です。栽培管理が徹底された高品質な芝として、オリンピック東京2020では主会場となった新国立競技場に採用されました。



(写真提供：鳥取県、JA全農とっとり、鳥取県牛肉販売協議会、鳥取県芝生産組合)

3 鳥取県農業信用基金協会の概要

当協会は、役員12名(理事9名、監事3名)のうち会長を常勤とし、職員9名が総務部、業務部、管理部の3部体制で業務を行っています。

事務所は鳥取駅北口より徒歩5分、県庁所在地の市街地中心部に沸く“鳥取温泉”街に位置しています



(JR鳥取駅の砂文字モニュメント前にて)

4 鳥取県農業信用基金協会の活動

当協会は、保証審査に係る事務効率化、競争力強化のため、自動審査システム、リスク計量化システム、WEB申込システムを共同開発・導入し、住宅ローン残高のシェアはほぼ100%となっています。

当初、住宅ローン等の生活資金は、他金融機関との競争激化の中、保証残高が伸び悩んでいましたが、特に住宅ローンについてリスク計量化に基づいた段階別保証料率の導入、年収・勤続年数などの項目を段階別に区分けした「目審査表」の設定により、JAローンセンターの職員および住宅業者からみた案件ごとの保証料率の「分かり易さ」と他金融機関を意識した保証料率体系を構築した結果、近年の保証引受は堅調に推移しています。

農業資金については、長引く新型コロナウイルス感染症の影響もある中、JA担当者による積極的な貸付推進ならびにJAバンクの利子補給、特に近代

化資金に対する保証料全額助成により、落ち込んでいた保証残高は回復し伸長傾向にあります。

また、農業者等への資金融通をより円滑に取り進めるため、実際の農作業等の体験を通じて農業への理解を深めることを目的として、職員の農業研修を実施しています。今年度の作物は「白ねぎ」とし、定植から収穫までの作業に汗を流しています。

今後も、JA等金融機関と歩調を合わせ、要望・ニーズの把握と改善に取組み、融資担当者から頼られる保証機関として邁進してまいります。

